

大山祇神社

1600年頃の火災で多くの記録が失われたため、大山祇神社がいつ建立されたのかは正確には分かっていません。しかし、この神社の九鬼嘉隆や鳥羽城との繋がりについては多くの記録が残されています。

九鬼嘉隆が鳥羽城を築いていた時、山と海の神である大山祇を祀るこの神社は、城の建築が行われていた丘の上にありました。築城中に石垣や土台が崩れる事件が多発したため、嘉隆はこの神社を現在の場所に移させました。その後問題が起きることはなくなり、城は落成に至りました。

現在では、この神社は鳥羽市内の4地域が毎年交代で管理しています。大山祇は春におこなわれる2つの祭りで知られています。そのうちの1つでは獅子と天狗（長い鼻が特徴的な伝説上の神）の伝統的な衣装に身を包んだ演者が舞を披露します。もう1つの祭りでは、町の人々が神輿を担いで伝統的な音楽に合わせて町内を練り歩きます。